



## 新規採用者からの メッセージ

### 農業経営と地域農業の 発展のために

地域戦略部事業化推進室  
高橋 渉



4月から地域戦略部事業化推進室に農業技術コミュニケーターとして採用されました高橋渉です。3月までは岩手県職員として、農業技術などを生産者に普及する農業改良普及センターや、農業・農村施策を推進する県庁・振興局、技術の研究・開発を行う試験研究機関などを歴任してきました。

私が就任した農業技術コミュニケーターは、農研機構が開発した農業技術や品種などを広く「普及」し、農業者の方々の経営と地域農業の発展につなげていく職と理解しています。言葉で表せば簡単ですが、職務の重さを強く感じています。職務の遂行には、農研機構の職員の皆様をはじめ、地域の農業者、各県・農業団体・関係企業などの関係者の皆様との信頼関係と「つながり」を一刻も早く構築していくことが必要と考えています。私自身のこれまでの経験と人とのつながり等を生かし、精一杯、頑張っていきたいと考えておりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

### 研究成果を いち早く現場に

地域戦略部事業化推進室  
小野 正隆



聞きなれない職名だと思いますが、4月から農業技術コミュニケーター（CM）として、研究成果の現場への普及や現場のニーズを把握するための業務を担当することとなりました。去る3月までは岩手県職員として長く農畜産業の振興を担当してきましたが、今後も東北地域の農畜産業の発展に携わっていく

ことができると思っております。

小職が担当する重点とすべき研究成果は、「子実用トウモロコシ」の生産・収穫調製・給与です。輸入飼料をめぐる情勢が一層不安定となるなか、濃厚飼料の自給は大きな注目を集めていくことが想定されます。生産現場では、飼料用米や稲WC Sをはじめ水田を活用した飼料確保の取組が一層重要になるとともに、研究部門と普及部門の協働や行政機関と民間団体との連携が不可欠な時代となっております。

農研機構が開発した研究の成果が可能な限り速やかに現場で活用されるよう、畜産農家の経営安定に向けて、拙い経験を活かし微力ながら頑張ります。

### 東北の鳥獣害対策を 福島から

農業放射線研究センター  
中村 大輔



4月から農業放射線研究センター営農再開グループに主任研究員として配属された中村大輔です。これまで鳥獣害対策の調査研究に携わり、農業現場を歩いて農家さんから考え方を学び、山を歩いて野生動物の生息環境を知る日々でした。東北地域に住むのは初めてですが、調

査業務で地元の方と南奥羽の山々を歩いたことがあり、その優しい雰囲気と落葉広葉樹林が広がる山の豊かな環境はとても印象的でした。福島勤務地では、道路際に延々と広がる樹園地や、背後にそびえる吾妻の山の景色を楽しみながら出勤しています。

私の仕事は、第一に避難指示区域における営農再開や定住促進を阻害する野生動物の行動調査及び対策手法の提案です。第二に野生動物の分布回復に伴い鳥獣害が拡大している東北地域において、気象や農業環境といった地域の条件に適合した被害防除手法や捕獲手法を検討し、現場で実証することです。毎日農地と山を歩みながら働ける幸せをかみしめつつ、東北地域における農業の発展に貢献できるよう頑張ります。